多彩な絵画と造形

淡路市 アート山と仲間たち展

淡路島内外の芸術家や美術愛好家の作品を集めた「第5回淡路大磯アート山と愉快な仲間たち展」が11日、淡路市のサンシャインホールで始まった。風景画や抽象画など多彩な絵画と造形作品など計1,74点が展示されている。14日まで。

同展は淡路市橋本の自宅周辺に芸術空間「アート山美術館」を開く、洋画家の大石可久也さん(87)が発案、2005年から08年まで4回実施したが、その後は人手不足などを理由に開催を断念していた。

しかし今年発生した東日本大震災を受け、大石さんは「われわれにできるのは、仲間が集まって元気なエネルギーを送ることだ」と3年ぶりの開催を決意。親交のある芸術家や教え子に呼び掛けたところ、島内3市や神戸市、大阪市などから66人が出展に応じた。

会場にはアート山の日常を切り取った写真やイタリアの風景画、つぼや彫刻作品などが並ぶ。大石さんが描いた、淡路市内の海岸の風景画と、妻の純子さんがアンティークの乳母車に海岸で拾った貝をちりばめた作品も飾られている。

大石さんは「すべての作品の根底に流れる、美と愛の世界を感じ取ってほしい」と話している。

入場無料。午前10時～午後6時(最終日は午後1時まで)。問ホール☎0799・74・0325

(内田世紀)

来場者を歓迎する大石可久也さん(手前)と作品の出展者らーサンシャインホール